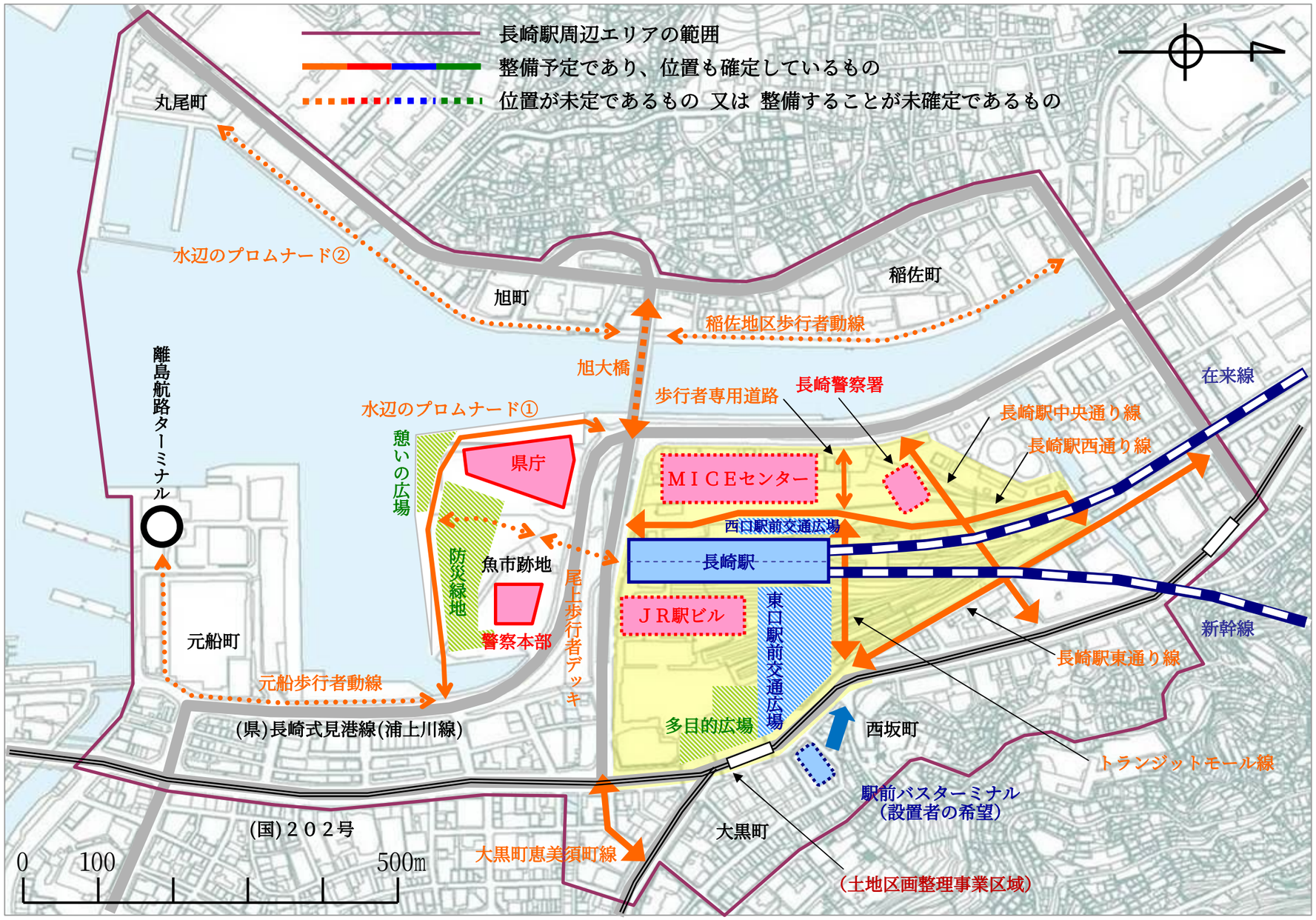
資料３

エリアの現況及び対象施設の概要について

○　長崎駅周辺エリアデザイン調整会議で取り扱う施設は、「長崎市中央部・臨海地域の都市再生」の一環として平成２５年３月に整備計画を定めたエリア内で新たに整備予定の建築物及び基盤施設のうち、都市構造や都市景観に大きな影響を及ぼす相当規模のものとする。（設置者が公共団体であるか民間であるかは問わない。）

○　ただし、新県庁舎や防災緑地など、魚市跡地に建設・整備する施設については、「環長崎港地域アーバンデザイン専門家会議」の直接的な指導・助言を受けながら設計を進めており、当会議による調整対象としない。



○　長崎駅周辺エリア内の各地区の現況は、下表に示すとおりである。

その１

地区名	現状	参考写真等
土地区画整理事業区域	ＪＲ長崎本線の終点・長崎駅があり、市内の商業核の１つである大規模店舗も立地しているが、それらの西側には、鉄道操車場用地など広大な低利用地が存在する。駅前広場周辺では、交通の輻輳や乗場の分散といった問題があり、陸の玄関口に必要な交通結節機能を十分に発揮できていない。 現在、踏切の除却と線路による市街地分断の解消を目的とする在来線の連続立体交差事業や、基盤施設と建築敷地を一体的に整備して土地利用の転換・高度化を図る土地区画整理事業を施行中であり、全国の高速鉄道網に直結する新幹線の建設計画も進められている。	 土地区画整理事業区域の全景 長崎駅前広場の現状
大黒町・西坂町	大黒町には、長崎の玄関口に賑いを与えてきた駅前商店街があるが、大規模店舗の台頭などにより、かつての多様な業種を揃えた商店街から、飲食業を中心とした業態に変化している。今後、長崎駅が西側に移転することに伴う影響も予想され、新駅からのアクセス確保が重要な課題である。 西坂町では、国道２０２号に沿って業務施設が立地し、その背後は斜面住宅地となっている。斜面地の一画に、本県の重要な歴史資産である「日本二十六聖人殉教地」も存在するが、周囲のビルなどによって眺望が阻害され、観光地としての環境は十分とは言えない。	 長崎駅前商店街の状況 二十六聖人殉教地からの眺望
長崎魚市跡地	長崎港の最奥部に位置し、海への眺望が開け、水辺の環境を感じることができる場所である。 平成元年に長崎魚市場が郊外へ移転した後、市内で開催されるイベント用の臨時駐車場などとして暫定利用されてきたが、現在でも漁港区域の一部として位置付けられており、平成１４年に定めた特定漁港漁場整備計画に基づき、防災拠点及び避難港としての施設整備を進めている。 また、老朽化・狭隘化・耐震性不足などの問題を抱えている県庁舎及び警察本部庁舎の移転先として決定し、現在、建設に向けた設計作業を行っている。	 長崎魚市跡地の全景 臨時駐車場としての利用状況

地区名	現状	参考写真等
元船町	国道２０２号の沿線には、業務施設や小規模な店舗が連坦し、比較的高密な土地利用となっている。県道長崎式見港線（都市計画道路・浦上川線）の沿線も、業務系の土地利用であるが、平面式駐車場などの低利用地も少なくない。 大波止（元船突堤一帯）には、離島航路や港内クルーズが発着するターミナル、内貿貨物を取り扱う物流倉庫などを整備済みであり、長崎の海の玄関口としての機能を果たしている。また、これらに隣接して、県内最大の商業施設も立地しており、広範囲からの集客によって、平日・休日を問わず恒常的に賑わいが見られる。	 国道２０２号沿線の状況 大波止の港湾施設と商業施設
稲佐町・旭町・丸尾町	稲佐町は、業務施設や小規模工場、住宅が混在する地区である。かつては、長崎魚市場と関連のある事業所が多く立地していたが、魚市場の移転に伴ってこれらもほとんどが移転し、平面式駐車場などの低利用地が増えている。 旭町・丸尾町は、以西底引き網漁の基地であったが、魚市場の移転後はその機能を失った。旭町では、関連施設の跡地で市街地再開発事業が行われ、中高層の集合住宅が整備されたが、丸尾町は、大半が平面式駐車場となっている。 これらの地区は、長崎駅から近い位置にあるが、アクセス環境が悪いため、そのポテンシャルを活かし切れていない。	 丸尾町の低利用地 旭町の再開発ビル
駅周辺の公共交通	長崎駅の乗降客数は１日に約２２０００人、長崎港ターミナルの利用者数は約４５００人であり、このうち約１８００人が両施設間を往来している。 長崎駅前には１日に約７００本の路面電車と約４０００本の路線バスが運行しているが、駅前広場への乗り入れは、駅を起終点とする路線バス数十便にとどまり、それ以外は国道上での乗降となっている。特に、南向きのバス停は、駅から離れた場所に分散し、鉄道との結節性が悪いため、駅舎の移転に合わせて路線や乗場を再編することが望まれる。 なお、都市間高速バスや空港連絡バスが発着する大黒町の駅前バスターミナルは、老朽化や狭隘化などの問題を抱えており、設置者としては、土地区画整理事業区域内への移転を希望している。	 長崎駅前電停周辺の状況 移転を計画しているバスターミナル

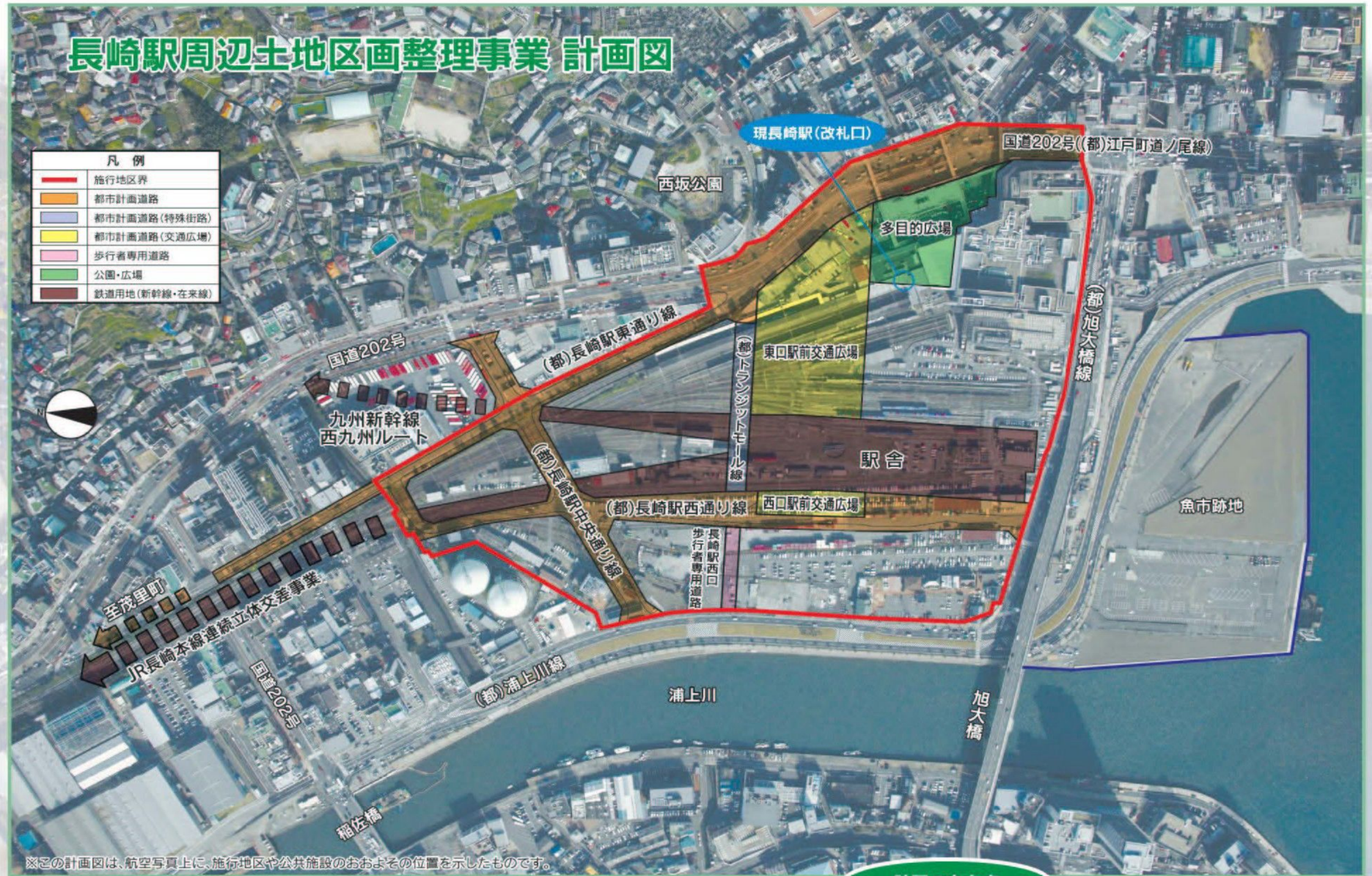
○　長崎駅周辺エリアデザイン調整会議で取り扱うことを想定している施設は、下表に示すとおりである。

その１

番号	名称	設置者	計画概要	整備手法	整備予定時期	備考
1	長崎駅舎(在来線)	ＪＲ九州、長崎県	・高架式、２面５線 ・１Ｆ：コンコース、２Ｆ：乗場 ・ホーム長：約１９０ｍ	連続立体交差事業	設計：H26～H29 施工：H29～H30	
2	在来線高架橋	ＪＲ九州、長崎県	・延長：約５４０ｍ（エリア内のみ、駅部除く） ・一般部：ラーメン形式、道路交差部：橋梁形式	連続立体交差事業	設計：～H27 施工：28～H29	
3	長崎駅舎(新幹線)	鉄道・運輸機構	・高架式、２面４線 ・１Ｆ：コンコース、２Ｆ：乗場 ・ホーム長：約１８０ｍ	新幹線建設事業	設計 } その２の 施工 } 認可後	平成34年春完成目標
4	新幹線高架橋	鉄道・運輸機構	・延長：約４５０ｍ（エリア内のみ、駅部除く） ・一般部：ラーメン形式、道路交差部：橋梁形式	新幹線建設事業	設計：～H26 施工：H27～H34	
5	東口駅前交通広場	長崎市	・面積：約１５,０００㎡ ・国道２０２号に接続 ・路線バス、定期観光バス、貸切バス、タクシーの乗り入れを想定	土地区画整理事業	設計：H28～H30 施工：H32～H35	バス運行ルートの見直し等に伴い、導入機能が変わる可能性あり
6	西口駅前交通広場	長崎市	・面積：約３,０００㎡ ・長崎駅西通り線に接続 ・タクシー、一般車の乗り入れを想定	土地区画整理事業	設計：H27～H28 施工：H29～H30	同上
7	多目的広場	長崎市	・面積：約６,９００㎡ ・施設内容は未定	土地区画整理事業	設計：H28・H30 施工：H32～H35	
8	長崎駅西通り線	長崎市	・延長：約６１０ｍ ・幅員：１２～２１ｍ ・２車線（片側１車線）＋両側歩道	土地区画整理事業	設計：H27 施工：H29～H32	
9	長崎駅中央通り線	長崎市	・延長：約３００ｍ ・幅員：２６ｍ ・４車線（片側２車線）＋両側歩道	土地区画整理事業	設計：H27 施工：H29～H33	
10	長崎駅東通り線	長崎市	・延長：約５６０ｍ（エリア内のみ） ・幅員：１４～１７ｍ（エリア内） ・２車線（片側１車線）＋両側歩道	土地区画整理事業	設計：H30 施工：H32～H33	
11	トランジットモール線	長崎市	・延長：約１５０ｍ ・幅員：１８ｍ ・路面電車軌道（複線）＋両側歩道	土地区画整理事業	設計：H28・H30 施工：H33～H34	路面電車の乗り入れ断念を受け、利用方策を検討中

番号	名称	設置者	計画概要	整備手法	整備予定時期	備考
12	歩行者専用道路	長崎市	・延長：約８０ｍ ・幅員：１２ｍ	土地区画整理事業	設計：H27～H28 施工：H29～H30	
13	長崎警察署	長崎県警察	・位置：新駅舎西側の保留地 ・施設内容、規模等は未定	警察施設整備事業	設計：H27～H28 施工：H28～H30	運転免許センターを併設する可能性あり
14	駅前バスターミナル	長崎県交通局	・位置、施設内容、規模とも未定	未定	未定	設置者は、長崎駅周辺土地区画整理事業区域内を希望
15	長崎ＭＩＣＥセンター	未定	・位置：新駅舎西側の換地（ＪＲ貨物） ・延床：４２，６８０㎡（ホテル除く） ・メインホール約３，０００㎡＋展示ホール約３，０００㎡＋会議室約４，５００㎡ ・ホテル及び駐車場を併設	未定	未定	H25年度中に整備の可否を判断する予定
16	長崎駅ビル	ＪＲ九州	・位置：新駅舎東側の換地（ＪＲ九州） ・施設内容、規模等は未定	民間開発事業	未定	
17	都市計画道路 大黒町恵美須町線	長崎市	・延長：約１１０ｍ ・幅員：２６ｍ ・４車線（片側２車線）＋両側歩道	街路事業	設計：H29 施工：H30～H32	
18	旭大橋	長崎県	・高架構造から平面構造に改築 ・延長：約６９０ｍ→約１２０ｍ ・幅員：２４ｍ ・４車線（片側２車線）＋両側歩道	都市再生総合整備事業	未定	現時点では、H40年代前半の完成が目標
19	尾上地区歩行者デッキ	長崎県	・位置：新駅舎南口～長崎魚市跡地 ・延長：約１００ｍ ・幅員等は未定	都市再生総合整備事業	未定	同上
20	元船地区歩行者動線	長崎県	・位置：長崎魚市跡地～離島航路ターミナル ・延長：ルートにより異なる ・ルート、構造等は未定	未定	未定	同上
21	稲佐地区歩行者動線	未定	・位置：稲佐橋西詰～旭大橋下 ・延長：約６００ｍ ・幅員等は未定	未定	未定	同上
22	水辺のプロムナード②	長崎県	・位置：旭大橋下～丸尾船溜り ・延長：約７００ｍ ・幅員等は未定	特定漁港水産流通基盤整備事業	未定	同上

※各施設の計画概要、整備手法、整備時期は、今後の検討過程で変更となる可能性がある。



■公共施設の計画

●道路計画

都市計画道路	長崎駅中央通り線 ……	幅員約26m	延長約300m
	長崎駅東通り線 ……	幅員約10～17m	延長約1,240m
	長崎駅西通り線 ……	幅員約12～21m	延長約610m
	トランジットモール線……	幅員約18m	延長約150m
	長崎駅東口駅前交通広場 ……	約15,000㎡	
	長崎駅西口駅前交通広場 ……	約3,000㎡	
その他の道路	長崎駅西口歩行者専用道路 ……	幅員約12m	延長約80m

●広場計画

多目的広場 …… 約6,900㎡

※施行地区内(赤線内)の着色していない部分が宅地となり、土地の所有者の方への換地などになります。

計画の主な点

- ●地区の中央に在来線と九州新幹線西九州ルートが、ともに高架となって新しい長崎駅に乗り入れます。
- ●新しい長崎駅は、現在の長崎駅から西側(浦上川方面)へ150m程度移動します。
- ●新しい長崎駅の東西両側に交通広場を配置します。
- ●人々が憩い、集い、語らう場として、さらには、様々なイベントなど多目的に利用できる空間として、多目的広場を配置します。